

コード統一に向けての解決アプローチ

目次構成

はじめに

1. コード統一実施上の課題と進める上でのポイント

2. コード統一を解決手段とするプロジェクトの進め方

-フェーズ 1:システム検討と評価

-フェーズ 2:システム設計

3. フェーズ 1 における留意事項

ACT.A プロジェクトの暫定対象範囲の設定

-対象範囲設定

ACT.B 現状システムの分析

-データ/エンティティ分析

-暗黙知としてのコード利用

-設計書の補完

ACT.C 情報ニーズの調査

-ニーズの把握

-不一致コード対策

-業務統合実施時のポイント

ACT.D 情報要求とプロジェクト対象範囲の設定

-統一コードの意味定義及び対象範囲設定

-不一致コード対策

-業務統合実施時のポイント

ACT.F システム・アプローチと実現可能性の検討

-実現性の検証

-コード管理業務の統廃合

-移行/テスト方針の確認

-セキュリティ対策

-影響範囲の特定と調整

ACT.G システム評価

-影響範囲の特定と調整

-コスト評価

4. フェーズ 2 における留意事項

ACT.A システムのサブシステムへの分割

-サブシステム分割

-サブシステム仕様

-他システムへの影響

-業務統合実施時のポイント

ACT.B システム・フロー、システム説明書、DMD 説明書の作成

-データの共通化

ACT.D システム設計評価

-移行の検討

-業務移行

-システム移行

-データ移行

-移行にかかわるマネジメント課題

-テスト計画の確定

5. フェーズ 3 留意事項について

コード統一に向けての解決アプローチ

6. プロジェクトの特性

- 6.1 プロジェクト管理の「型」と「方式」
- 6.2 4つのプロセス形式
- 6.3 プロセスの形式を判定する条件
- 6.4 プロセス形式の判定

7. 陥り易い事例(プロジェクト推進において)の紹介

- 7.1 合成コード(意味ありコード)の対応
- 7.2 コード統一の対象業務間にて要件が異なる
- 7.3 社外の認知されたコードとの対応
- 7.4 海外工場展開プロジェクトにおけるコード問題
- 7.5 コード統一に向けての現状データ調査に膨大な時間を要するケース
- 7.6 統一コードを困難とする種々のケース

8. 添付資料(アクティビティ実施上のポイント【フェーズ1、2】)